

## 愛知万博「リレーインタビュー④」

中部国際空港とともに、愛知万博でも多くのメディアで発言してきた。どういう訳か、地元の中日新聞からは取材がなかった。読売新聞 1999 年 9 月 6 日朝刊「試される叡智 2005 年愛知万博」リレーインタビュー④に登場した。私の次は、元環境庁長官の岩垂寿喜男さん。岩垂さんも愛知万博見直しに大きな役割を果たした。久しぶりにインタビューを読んだが、なかなか鋭く?今に通じる問題を提起している。当時は目が鋭かった。私の発言のポイントを紹介したい。

「1970 年の大阪万博の時とは時代が違います。財政と環境に負担をかけて、イベントで地域を活性化するのではなく、ほかにもっと経済を活性化する方法があるはず。学生に聞いてみても万博には興味を示しません。毎日がイベントのような今、若い人ほど今さらなぜイベントなのかと感じているようです。」

環境への負荷を低減するため、愛知青少年公園などが会場に追加されたことについて

「いい方向にはなりましたが、依然として海上の森に施設が配置され、森が守れないという点では変わっていません。県がなぜあの場所にこだわるかと言えば、新住事業(新住宅市街地開発事業)があるからです。新住は必要性、公共性、採算性という意味から非常に問題です。今、あの場所に 6 千人居住の住宅が必要か。万博と新住の関係は、中部国際空港と前島(空港対岸部を埋め立てる愛知県の地域開発)の関係と同じです。新住も前島も必要性が乏しいのに、そちらのほうが極めて環境への負荷が大きい。必要性のない事業はやめるべきだ。そうでないと県民の公共事業への不信感は募るばかりです。」

「(高度成長期の)大阪万博や東京五輪の時代には国家的イベントをやれば、国からおぼれの関連事業があったが、時代は大きく変化しました、愛知は時代の変化に対する認識が甘いのでは。東京、大阪という大きな兄貴たちがやってきたことを遅れてやろうとしている。状況を見極め、やめる勇気も必要です。」

「青少年公園を会場に加えたことで、基盤整備、アクセスともにお金がかかり、中途半端な分散だと思っています。私は開催反対ですが、どうしても開催したいなら、2500 万人という入場者にこだわらず、規模を縮小すべきです。特定の会場に人を呼ぶのではなく、インターネットを使って地域全体を巻き込むなど従来とは違った発想の国際博にして欲しいのです。」

このインタビューの 4 カ月後、博覧会国際事務局(BIE)が万博跡地計画(新住計画)に警告を発した。新住事業は中止となり、万博会場計画も大幅に見直されることになった。

(2023 年 8 月 19 日)

